

第125期  
株主通信

2015年4月1日 ▶ 2016年3月31日



飯野海運株式会社

証券コード 9119

IINO LINES

## 経営理念

- 安全の確保が社業の基盤
- よいサービスと商品を社会に  
適正な価格で安定的に供給
- 取引先のニーズに迅速・的確に対応
- 社会的要請へ適応し環境に十分配慮
- 株主、そして役職員へのリターン充実を  
目指し企業価値向上を志向

## 行動憲章

- 安全の重視
- 社会への貢献
- 取引先の尊重
- コンプライアンスと社会秩序の維持
- 差別の廃絶・人権の尊重
- 環境の保護
- 情報開示とコミュニケーション

### 外航海運業

→ P3, P4

オイルタンカー



大型ガスキャリア



ケミカルタンカー



ドライバルクキャリア



### 内航・近海海運業

→ P4

小型ガスキャリア



## 事業紹介

当社グループでは、日本と海外あるいは  
海外間での貨物を船船にて運送する外航海運業、  
日本国内間あるいは日本と中国などの  
近海を結ぶ内航・近海海運業、  
賃貸ビルとフォトスタジオなどを運営する  
不動産業の3つの事業を行っております。

### 不動産業

→ P5

イイノホール  
(飯野ビルディング)



カンファレンスセンター  
(飯野ビルディング)



イイノ・メディアプロ



賃貸ビル (飯野ビルディング)



## 当期の事業環境について

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて私は、本日開催の定時株主総会後の取締役会決議により、代表取締役・社長執行役員に就任いたしました。第125期株主通信(2015年4月1日から2016年3月31日まで)をお送りするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当社グループは、2014年4月より3か年の中期経営計画「STEP FORWARD 2020」“攻めの展開へ”を策定し、3つの重点強化策と5つの基盤整備項目を設けて、グローバル企業への成長、そして企業価値の向上を目指しております。2年を経過した当期末において国際ネットワーク強化、重点戦略部門であるケミカルタンカー及びガスキャリア分野に関する計画は概ね順調に進捗しており、不動産業においても安定収益を着実にあげております。しかしながら、一部の船種においては計画策定当初の想定を上回る大幅な市況の悪化により十分な成果を上げるに至っていない分野もあります。特にドライバルクキャリアにおいては、保有船舶の減損処理や売船に伴う特別損失を計上する結果となりました。今後の課題として、引き続き不経済船の減船や船腹調達の多様化を図り、コスト競争力の強化に取り組んでいく必要があります。残りの1年についてもしっかりと課題に取り組み、次の中期経営計画へ繋げていきたいと考えています。

## 当期の取り組み・業績について

当期の世界経済は、米国を中心とした先進国で景気拡大の動きが見られる一方で、新興国経済の減速及び原油価格の下落等により、先行き不透明感が高まりました。わが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善が見られませんが、中国等の新興国経済減速が輸出や設備投資の重しとなっており景気の足踏み状態が続きました。

当社グループの海運業においては、ケミカルタンカー市況が安定的に推移したことに加え、円安が追い風となった一方、ドライバルクキャリアでは船腹の供給圧力が依然根強く市況は低迷しました。このような事業環境の下、既存契約の有利更改への取り組みをはじめとして、効率配船及び運航採算の向上を図りました。不動産業においては、飯野ビルディングをはじめとする各ビルが順調に稼働しました。

以上の結果、売上高は948億43百万円、営業利益は81億15百万円、経常利益は76億55百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は36億59百万円となりました。

なお、当期末の配当につきましては、業績・今後の見通しに配慮して安定的に配当を継続するという当社基本方針に基づき、ご案内の通り1株当たり普通配当5円(年間配当10円)とさせていただきます。

今後とも株主の皆様のご期待にお応えできるよう精励いたしますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月



代表取締役社長

當 倉 裕 己

## 目次

株主の皆様へ	2
ビジネスレポート	3
ニュース&トピックス	7
連結財務ハイライト	9
連結財務諸表	11
会社概要	13
株式情報	14

## 外航海運業

### ■ オイルタンカー

オイルタンカー市況は、通期にわたり好調に推移しました。当期前半より原油安による中国の輸入増等から市況は安定的に推移しましたが、夏場には一時的に下落しました。当期後半は冬場の需要期に向けて原油の輸送需要が高まったことから、再び好調に推移しました。

当社グループのオイルタンカーにおいては支配船腹の延長契約を獲得し、引き続き長期契約に投入することで安定収益を確保しました。



KOHO I 301,045DWT(原油タンカー)

### ■ 大型ガスキャリア

LPGキャリア市況は、インド、中国等の堅調なLPG需要増加に加え、米国積みLPGの荷動き増加等から高水準にて推移しました。当期後半は新造船の竣工による船腹供給の増加から軟化傾向となりました。LNGキャリア市況は、新造船の竣工に対する新規輸送需要の伸びが限定的で、スポット市況は低水準に留まりました。

当社グループの大型ガスキャリアにおいては、LPGキャリア及びLNGキャリア共に既存の中長期契約へ継続投入することで安定収益を確保しました。また、期中に国内荷主向けの新造大型LPGキャリア1隻の定期用船契約を締結しました。



SUMIRE GAS 82,416m<sup>3</sup>(大型ガスキャリア)

### ■ ケミカルタンカー

ケミカルタンカー市況においては、プロダクトタンカーのケミカルタンカー市場への流入が少なく、当期後半はシェールガス由来の製品も含め北米・カリブからアジア向け等、長距離の輸送需要が増えたこと等により、船腹の需給は引き締まり、運賃市況は総じて安定的に推移しました。プロダクトタンカー市況は、原油安による需要の増加や中東の新規製油所稼働による荷動きの増加等により堅調に推移しました。

当社グループのケミカルタンカーにおいては、基幹航路である中東からアジア及び欧州向け航路では、既存契約に加え新規数量輸送契約を獲得し、中東の配船頻度に見合う輸送数量を確保し効率的な配船を堅持しました。アジア及び欧州からインド・パキスタン向け航路では、既存契約による輸送数量確保及びパームオイルや石油化学製品のスポット貨物の集荷により安定的な稼働を維持しました。南米向け配船も実施し、全体的な採算の向上に努めました。当社と米国オペレーターとの合併事業会社では大西洋域内を中心に、数量輸送契約に加えてスポット貨物も効率的に集荷し高稼働を維持することができました。プロダクトタンカーにおいては、支配船腹を中長期契約に継続投入し、安定収益を確保しました。



CHEMROAD POLARIS 35,923DWT(ケミカルタンカー)

売上高 723億64百万円  
営業利益 37億67百万円



内航・  
近海運業

売上高 94億24百万円  
営業利益 3億64百万円



## ■ ドライバルクキャリア

ドライバルクキャリア市況においては、老齢船のスクラップの進展は見られたものの、中国経済の減速や新造船の竣工圧力が続いたこと等から、歴史的な低位水準に落ち込み、通期にわたり低迷しました。

当社グループのドライバルクキャリアにおいては、石炭専用船とチップ専用船については順調に稼働し、パナマックス船隊は数量輸送契約への投入、不採算船処分など、採算向上を図りました。一方、ハンディ船においては船隊縮小による稼働の改善、減速航行や港費削減等に努めましたが、収益改善には至りませんでした。



MARTIN ISLAND 32,723DWT(ドライバルクキャリア)

## ■ 小型ガスキャリア

内航ガス輸送は、LPG需要は前期比微減となったものの、石油化学ガスの生産量は増加しました。内航ガス船の船腹量に大きな変化は見られず、海上荷動きは通期にわたり堅調に推移しました。

当社グループの内航ガス輸送は、当社LPG主力荷主の販売が好調に推移し、投入船の稼働は向上しました。石油化学ガスにおいても中長期契約を中心に安定収益を確保しました。

近海ガス輸送は、中国経済の減速が顕著となる中、当水域の主要貨物であるプロピレンの荷動きが減少に転じました。過去数年にわたり続いていた新造船流入の勢いは鈍化しましたが、市況は低迷を続けました。

当社グループの近海ガス輸送は、市況低迷の影響を受け採算の悪化を余儀なくされました。なお、前期に返船した3,500m<sup>3</sup>型1隻の代替として、新たに同型の新造船1隻を船隊に加え、船隊の若返りを図りました。



瑞邦丸 1,829.502m<sup>3</sup> (小型LPGキャリア)

## 不動産業

売上高 131億38百万円  
営業利益 39億84百万円



### ■ 不動産賃貸／不動産関連事業

都心のオフィスビル賃貸市況は、各企業における業容・人員拡大を背景としたオフィスの拡張・統合需要により、一時期、未成約スペースが目立った新築大型ビルの稼働率も改善され、既存ビルを含めた全体の空室率は低下し、賃料水準は緩やかながら上昇傾向を継続しました。

当社グループの賃貸ビルにおいては、テナント退去のあった所有ビル1棟において、新たなテナントと長期契約を結ぶことができました。その他各ビルにおいても継続して良質なテナントサービスに注力し、概ね順調に稼働しました。

貸ホール・貸会議室においては、多くの競合施設がある中、厳しい顧客獲得競争が続きました。

当社グループのイノホール&カンファレンスセンターにおいては、セミナー、講演会、映画試写会、その他催事の積極的な誘致により、稼働の維持に努めました。

不動産関連事業のフォトスタジオにおいては、広告需要に堅調さが見られましたが、雑誌需要の低迷は続いており、使用料の単価も低調に推移しました。

スタジオ関連事業を行うイノ・メディアプロにおいては、主力のスタジオ部門、及びレタッチ、ロケーションの各部門で積極的な利用誘致に努めたほか、プロダクション部門では大型案件受注等があり、稼働は堅調に推移しました。



飯野ビルディング



イノ・広尾スタジオ

## ■ 運航船腹

(2016年3月31日現在)

船種	保有形態	社 船		用 船		合 計	
		隻 数	重量トン数	隻 数	重量トン数	隻 数	重量トン数
外航海運業	オイルタンカー	2	601,911	1	105,593	3	707,504
	ケミカルタンカー	13	425,189	27	862,473	40	1,287,662
	大型ガスカリヤ	15	1,019,681	3	132,598	18	1,152,279
	ドライバルクキャリア	8	580,650	12	399,858	20	980,508
内航・近海運業	小型ガスカリヤ	19	33,991	11	37,082	30	71,073
合 計		57	2,661,422	54	1,537,604	111	4,199,026

(注) 1. 社船には、グループ会社が所有する船腹を含んでおります。  
2. 社船の重量トン数には共有相手持分を含めて記載しております。

## ■ 賃貸ビル

(2016年3月31日現在)

名 称	所在地・延床面積 (m <sup>2</sup> )
飯野ビルディング	東京都千代田区内幸町 103,826.88
汐留芝離宮ビルディング	東京都港区海岸 32,702.37
東京桜田ビル	東京都港区西新橋 17,762.63
東京富士見ビル	東京都千代田区富士見 10,674.86
飯野竹早ビル	東京都文京区小石川 4,736.37
笹塚センタービル	東京都渋谷区笹塚 11,973.11
合計	181,676.22

(注) 汐留芝離宮ビルディング、東京桜田ビル及び東京富士見ビルは、他者と共有しており、延床面積には他者持分を含めて記載しております。

## ■ 主なグループ会社

(2016年3月31日現在)

外航海運業	船舶貸渡	Chemroad Echo Navigation S.A.
	船舶管理	イイノマリンサービス(株)
	海運仲立業 及び船用品売買	イイノエンタープライズ(株)
内航・近海運業	運航・貸渡 及び船舶管理	イイノガストランスポート(株)
不動産業	ビル管理	イイノ・ビルテック(株)
	倉庫業	泰邦マリン(株)
	フォトスタジオ	(株)イイノ・メディアプロ

当社グループは2020年に向けたグループ企業の一層の成長を目指し、2014年4月に中期経営計画「STEP FORWARD 2020」“攻めの展開へ”（計画期間：2014年4月～2017年3月）を策定し、事業を推進しております。本計画に基づくこれまでの当社グループの取組みについてご紹介します。

## 中期経営計画 「STEP FORWARD 2020」進捗状況のご報告

計 画 名：『STEP FORWARD 2020』  
 テ ー マ：『攻めの展開へ』  
 期 間：3年間  
 (2014年4月～2017年3月)

重視する指標：営業利益



### 重点強化策

- 1.差別化による競争力強化
- 2.国際ネットワークの強化
- 3.安定収益基盤の更なる強化

### 基盤整備目

- 1.情報共有の緊密化と有効活用
- 2.リスク管理の強化徹底
- 3.人事制度改革と組織運営強化
- 4.グループIT インテグレーション
- 5.安全の徹底と環境負荷低減への取組

### STEP FORWARD 2020 数値目標

(2014年4月24日発表)

	2015年 3月期計画	2016年 3月期計画	2017年 3月期計画	2021年 3月期目標
売上高	960億円	990億円	1,020億円	1,200億円
営業利益	69億円	85億円	100億円	150億円
経常利益	59億円	72億円	85億円	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	58億円	70億円	84億円	—
配当	8～12円	8～12円	8～12円	—

(前提条件)

為替	1US\$=¥100	1US\$=¥100	1US\$=¥100	—
燃料油(※1)	US\$570/MT	US\$570/MT	US\$570/MT	—

### 実績及び予想

(2016年4月28日発表)

	2016年 3月期実績	2017年 3月期予想
売上高	948億円	820億円
営業利益	81億円	70億円
経常利益	77億円	57億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	37億円	47億円
配当	10円	10円

(前提条件)

為替(※2)	1US\$=¥120.61	1US\$=¥110
燃料油(※1)	US\$281/MT	US\$180/MT

(※1) 実績年度は外貨油補油実績加重平均。予想年度と計画年度は補油地シンガポールにおける燃料油価格前提

(※2) 実績年度は社定レートの平均

## トピックス 1

# 新造VLGC “SUMIRE GAS” 竣工/ アストモスエネルギー(株)と新造VLGC定期用船契約を締結

2016年3月に新造VLGC(大型LPG外航船)、“SUMIRE GAS” が竣工しました。本船は今後、幅広くLPG輸送に従事する予定です。LPGの海上荷動き量は、北米シェールガス・オイル随伴 LPGの生産量増加に伴い、今後も増加することが予想され、当社グループの中期経営計画においても、ガス船事業を重点戦略事業のひとつと位置づけております。今後も豊富な経験を活かし、安定輸送・安全運航を念頭にエネルギー輸送、LPG輸送に積極的に取り組んでまいります。

また、当期においてアストモスエネルギー(株)と新造VLGC1隻の定期用船契約を締結しました。これにより当社は計7隻のVLGCを運航することとなります。中期経営計画目標である6隻体制は既に達成しておりますが、今後も有利契約の獲得を目指してまいります。



SUMIRE GAS (82,416m<sup>3</sup>)

## トピックス 2

# 飯野ビルディングが“トップレベル事業所”に認定

当社所有の飯野ビルディングが東京都環境確保条例における2015年度「優良特定地球温暖化対策事業所」(トップレベル事業所)に認定されました。同認定は、東京都が推進する地球温暖化対策において、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた管理体制、建物設備性能及び運用の推進の程度が極めて優れた事業所に対して与えられます。同ビルは高い環境性能と快適性を同時に実現するビルとして、省エネ効果の優れた設備を導入しているほか、日頃よりテナント各社様のご協力をいただき、ビル一体となった管理体制の下、CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた効率的な設備運用に努めております。

中期経営計画においても基盤整備項目として環境負荷低減をあげており、今後も飯野ビルディング建替えのコンセプトである「100年先にも愛されるビル」となるよう、きめ細やかな管理・運営を継続実施し、「環境保護」に積極的に取り組んでまいります。

## 当期の振り返りと今後の課題

当期は上記トピックスの他、以下の成果を上げることができました。

- ①重点戦略部門のケミカルタンカー部門における中南米や北米への配船によるマーケットの開拓
- ②安定収益を担うオイルタンカー部門において、VLCC(大型原油タンカー)の延長契約獲得

以上の通り、当期においても、ケミカルタンカー及びガスキャリアなどの重点戦略部門、不動産等の安定収益部門において着実に成果を上げることができました。しかしながら、ドライバルクキャリアでは依然として市況の低迷が続いており、保有船舶の減損処理や売船に伴う特別損失を計上する結果となりました。今後も、引き続き不経済船の減船などコスト競争力の強化などの課題に取り組み、次の中期経営計画に繋げられるよう事業を進めてまいります。

## ■ 連結財務ハイライト

科 目		第122期 2013年3月期	第123期 2014年3月期	第124期 2015年3月期	第125期 2016年3月期
売上高	(億円)	860	967	1,002	948
海運業	(億円)	748	853	886	818
外航海運業	(億円)	665	762	789	724
内航・近海海運業	(億円)	83	91	97	94
不動産業	(億円)	114	115	117	131
営業利益	(億円)	49	68	80	81
海運業	(億円)	9	26	39	41
外航海運業	(億円)	6	18	33	38
内航・近海海運業	(億円)	3	8	7	4
不動産業	(億円)	40	42	41	40
経常利益	(億円)	23	60	72	77
親会社株主に帰属する当期純利益	(億円)	12	49	52	37
総資産	(億円)	2,127	2,253	2,287	2,303
純資産	(億円)	472	586	659	653
自己資本比率	(%)	22.0	25.9	28.8	28.3
1株当たり当期純利益	(円)	11.66	45.77	46.98	32.97
1株当たり純資産	(円)	468.86	525.39	593.72	587.51
配当	(円)	4	8	10	10
配当性向	(%)	34.3	18.0	21.3	30.3
ネットDEレシオ <sup>(※)</sup>		2.71	1.94	1.74	1.78

(※) ネットDEレシオ = (有利子負債 - 現金及び現金同等物) ÷ 自己資本 [期末]

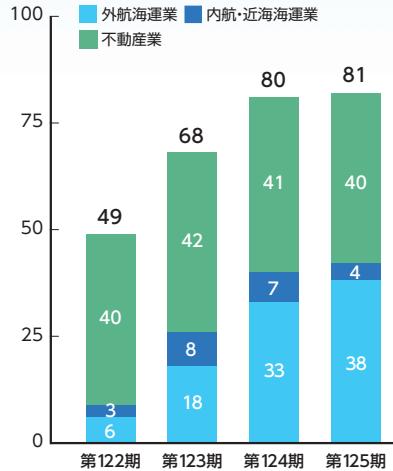
### 売上高

(単位: 億円)



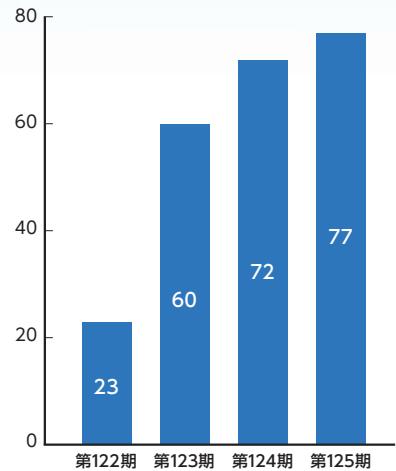
### 営業利益

(単位: 億円)



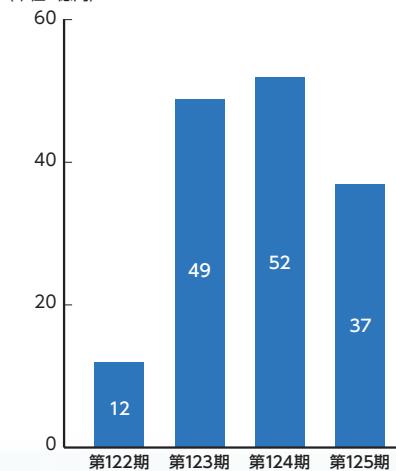
### 経常利益

(単位: 億円)



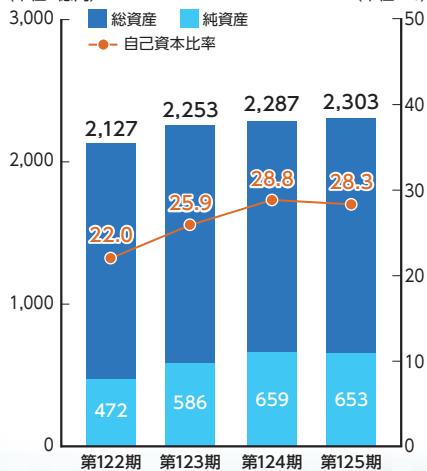
### 親会社株主に帰属する当期純利益

(単位: 億円)



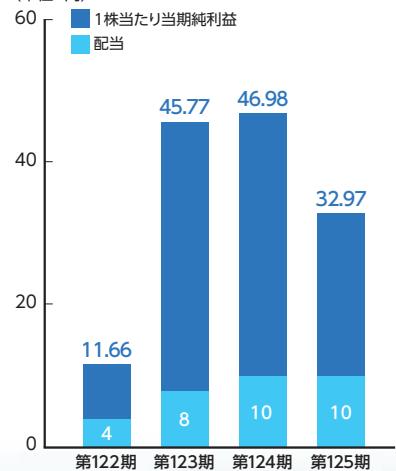
### 総資産・純資産・自己資本比率

(単位: 億円)



### 1株当たり当期純利益・配当

(単位: 円)



(※) 表示金額未満を四捨五入しております。

## ■ 連結財務諸表

### ■ 連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円、単位未満四捨五入)

科目	第124期 (2015年3月31日現在)	第125期 (2016年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	31,455	29,125
固定資産	197,238	201,153
有形固定資産	174,779	181,113
無形固定資産	560	578
投資その他の資産	21,899	19,463
<b>① 資産合計</b>	<b>228,693</b>	<b>230,278</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	36,416	35,342
固定負債	126,369	129,651
<b>① 負債合計</b>	<b>162,785</b>	<b>164,993</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	58,767	61,322
資本金	13,092	13,092
資本剰余金	7,613	7,613
利益剰余金	38,111	40,667
自己株式	△49	△49
その他の包括利益累計額	7,118	3,874
その他有価証券評価差額金	3,584	2,045
繰延ヘッジ損益	2,581	719
為替換算調整勘定	954	1,110
非支配株主持分	22	89
<b>純資産合計</b>	<b>65,907</b>	<b>65,285</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>228,693</b>	<b>230,278</b>

#### Point① 資産・負債の増減

資産合計は、船舶取得による固定資産の増加により、前連結会計年度末比で15億85百万円増加し、2,302億78百万円となりました。負債合計は、借入金の増加により、前連結会計年度末比で22億8百万円増加し、1,649億93百万円となりました。

### ■ 連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円、単位未満四捨五入)

科目	第124期 (自2014年4月1日 至2015年3月31日)	第125期 (自2015年4月1日 至2016年3月31日)
売上高	100,177	94,843
売上原価	85,799	79,974
売上総利益	14,378	14,869
販売費及び一般管理費	6,392	6,754
<b>② 営業利益</b>	<b>7,986</b>	<b>8,115</b>
営業外収益	1,844	2,643
営業外費用	2,636	3,103
<b>③ 経常利益</b>	<b>7,194</b>	<b>7,655</b>
特別利益	1,657	633
特別損失	3,548	4,022
税金等調整前当期純利益	5,302	4,267
法人税等合計	94	602
当期純利益	5,209	3,665
非支配株主に帰属する 当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	△4	6
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,213	3,659

#### Point② 営業利益

ケミカルタンカー市況が安定的に推移したことや円安等により営業利益は81億15百万円(前年同期比1億29百万円の増益)となりました。

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位: 百万円、単位未満四捨五入)

科目	第124期	第125期
	(自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)	(自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,107	18,804
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,022	△18,551
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,594	2,475
現金及び現金同等物に 係る換算差額	568	△381
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△4,941	2,347
現金及び現金同等物の 期首残高	16,906	11,965
連結の範囲変更に伴う現金 及び現金同等物の増減額	—	13
現金及び現金同等物の 期末残高	11,965	14,326

### キャッシュ・フロー分析

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、主に税金等調整前当期純利益と減価償却費により188億4百万円のプラスとなりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、主に船舶への設備投資を中心とした固定資産の取得による支出が、船舶を中心とした固定資産の売却収入を上回ったことにより185億51百万円のマイナスとなりました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、主に長短借入金の純増額が、配当金の支払額を上回ったことにより24億75百万円のプラスとなりました。

### 連結株主資本等変動計算書(要旨) (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)

(単位: 百万円、単位未満四捨五入)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	其他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	13,092	7,613	38,111	△49	58,767	3,584	2,581	954	7,118	22	65,907
当期変動額											
剰余金の配当			△1,110		△1,110						△1,110
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,659		3,659						3,659
自己株式の取得				△1	△1						△1
連結範囲の変動			7		7						7
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△1,539	△1,862	157	△3,244	67	△3,178
当期変動額合計	—	—	2,556	△1	2,555	△1,539	△1,862	157	△3,244	67	△622
当期末残高	13,092	7,613	40,667	△49	61,322	2,045	719	1,110	3,874	89	65,285

### Point⑤ 経常利益

営業利益が増益となったことに加え、持分法投資損益が利益となったことなどにより経常利益は76億55百万円(前年同期比4億62百万円の増益)となりました。

■ 財務情報については、下記をご覧ください。

<http://www.iino.co.jp/kaiun/ir/highlight.html>

飯野海運



## ■ 会社概要

(2016年3月31日現在)

商号	飯野海運株式会社 IINO KAIUN KAISHA, LTD. (略称：IINO LINES)	
創業	1899 (明治32) 年7月	
資本金	13,091,775,488円	
主要事業内容	海運業、不動産業	
本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング	
事業所	海外	ドバイ、大連 海外現地法人 シンガポール、ロンドン、 コネチカット、ヒューストン
グループ会社	連結対象子会社	54社
	持分法適用関連会社	4社
	連結対象外関係会社	10社
	合計	68社
上場取引所	東京(第一部)、福岡	
従業員数	単体 146名 (陸上94名、海上52名)	
	連結 619名	

## ■ 取締役及び監査役並びに執行役員

(2016年6月28日現在)

### 取締役及び監査役

役職	氏名	役職	氏名
代表取締役社長	當舎 裕己	取締役(社外)	遠藤 茂
代表取締役	近光 護	取締役(社外)	大江 啓
取締役	大島 久弘	監査役(常勤)	星野 憲一
取締役	岡田 明彦	監査役(常勤)	橋村 義憲
取締役	小藺江 隆一	監査役(社外)	鈴木 進一
取締役	神宮 知茂	監査役(社外)	堀之内 博一

### 執行役員

役職	氏名	担当及び他の法人等の代表状況等
社長執行役員	當舎 裕己	
専務執行役員	近光 護	経理部管掌及び人事部担当
専務執行役員	大島 久弘	船員部担当、海務安全部担当及び イイノマリンサービス(株)代表取締役社長
常務執行役員	岡田 明彦	総務・企画部担当
常務執行役員	小藺江 隆一	ケミカル船第一部担当、 ケミカル船第二部担当及び IINO SINGAPORE PTE. LTD.取締役社長
常務執行役員	神宮 知茂	経理部担当、経理部長委嘱及び イイノマネジメントデータ(株)代表取締役社長
執行役員	古澤 宏	専用船・不定期船部担当
執行役員	荒木 俊雄	船員部担当補佐、 海務安全部担当補佐及び イイノマリンサービス(株)常務取締役
執行役員	長谷川 陽一	油槽船・ガス船部担当
執行役員	佐藤 仁	イイノガストランスポート(株)代表取締役社長
執行役員	小林 宏是	不動産事業部担当及び不動産事業部長委嘱

(注) 当社は、上場している各証券取引所に対して、取締役 遠藤茂、取締役 大江啓及び監査役 鈴木進一の各氏を独立役員として届出ております。

## 株式の状況

発行可能株式総数	440,000,000株
発行済株式の総数	111,075,980株
株主数	9,074名

## 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
川崎汽船株式会社	5,940	5.35
東京海上日動火災保険株式会社	5,264	4.74
株式会社みずほ銀行	4,941	4.45
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15PCT TREATY ACCOUNT	4,251	3.83
飯野海運取引先持株会	4,105	3.69
三井住友信託銀行株式会社	3,622	3.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,308	2.98
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン スペシャル アカウント ナンバーワン	3,000	2.70
RBC ISB S/A DUB NON RESIDENT / TREATY RATE UCITS-CLIENTS ACCOUNT	2,500	2.25
日本生命保険相互会社	2,256	2.03

(注) 1. 持株数は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は自己株式(106千株)を除いて計算しております。

## 所有者別株式分布状況



## 株価及び出来高の推移



## インフォメーション

### ■ 「特別口座」で株式をお持ちの株主様へ

株券電子化前に証券保管振替機構(ほふり)へ預託されなかった株主様には、当社の株主名簿管理人である三井住友信託銀行に「特別口座」を開設しております。特別口座は、株主様の権利を保全するための暫定的な口座であり、この特別口座に記録された株式は、証券会社の取引口座に振り替えなければ売買できませんので、お早めに証券会社の取引口座への振替をお願いいたします。

特別口座からの振替のお手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行又はお取引先の証券会社へお問い合わせください。

### ■ マイナンバーについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

#### ● 株式関連業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。

#### ● マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

証券口座にて株式を管理されている株主様

➔ お取引の証券会社

証券会社とのお取引がない株主様

➔ 三井住友信託銀行 証券代行部 0120-782-031

# 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年の3月31日まで  
**定時株主総会** 6月に開催いたします。  
**定時株主総会の基準日** 3月31日  
なお、上記のほか必要があるときは、  
予め公告いたします。

**配当基準日** 期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日（中間配当実施の場合）

**単元株式数** 100株

**株主名簿管理人及び  
特別口座管理機関** 三井住友信託銀行株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

**郵便物送付先** 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

**公告の方法** 電子公告  
ただし、電子公告によることができない事故  
その他のやむを得ない事由が生じたときは、  
日本経済新聞に掲載して行うこととします。  
当社の公告はホームページに掲載しております。  
<http://www.iino.co.jp/kaiun>

**飯野海運株式会社** 〒100-0011  
東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング  
電話 (03)6273-3069



環境保全のため植物油インキを  
使用して印刷しています。



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

## WEBサイトのご紹介

当社では企業活動に関するお知らせや資料などを  
WEBサイトに公開しており、随時最新版が同サイト  
で確認できるようになっております。

飯野海運  <http://www.iino.co.jp/kaiun>



トップページ



IR情報トップ